

きょう どう
協 働
つう しん
通 心

ちくらだより

発行：南房総市千倉協働推進室 企画編集：千倉担当地域づくり支援員
〒295-8501 南房総市千倉町瀬戸2294番地 南房総市千倉支所内
TEL：40-0540 FAX：40-1013
E-mail: chikura@royalocn.ne.jp

平成22年11月
第4号

千倉漁港を見学しました！

ちくらの地域づくりを考える会で「ちくらの良いところと課題」の話し合いを進める中で、まちづくりの取り組みの一つとして、「千倉漁港を活用したまちづくり」について意見がでました。

会員の中から、「漁港施設及び周辺の活用方法を今後検討していく上で、港の現状を見学したい」という提案があり、11月4日に会員25名が参加して見学会を実施しました。



千倉港は、県内でも有数の水揚げを誇る大型漁港で、かつては、50～100t未満の大型船が、千倉漁港を本拠地として出漁し、さば・さんま・かつお・鮭鱒等を水揚げしていました。

見学当日は、漁船はほとんど停泊していませんでした。



漁業を取り巻く環境の変化や後継者不足により、かつてのにぎわいは感じられなくなりました。

千倉に住むものとして、何かできることがあるのではないですか。



佐久間支援員より、千倉港の規模、利用状況、法令などの説明がありました。



全長約1.2キロのある港を歩いて回りました。



老朽化した施設もありました。

ちくらの地域づくりを考える会 これまでの振り返りと今後の進め方

地域づくり を考える会	日 時	内 容
第1回	8月30日(月) 午後1時30分から	○地域の特性や課題の洗い出し及び絞込み 『自分たちのまちの課題を見つけよう！』をテーマに班ごとに地域の特性や課題の洗い出し、発表を経て、さらに参加者全員による課題の絞り込み。
第2回	10月1日(金) 午後1時30分から	○課題の解決に向けた取り組みを考える 前回の会議で絞り込んだ重点課題を基に『課題に対する取り組みを考えよう！』をテーマに班ごとにアイデアを出し合い、班ごとに発表。
参加者 ヒアリング	10月下旬から 11月中旬	○考える会の振り返りと今後の進め方などについて、参加者のみなさんと個別に意見交換
第3回	11月19日(金) 午後1時30分から	○課題の解決に向けた取り組みを考える(その2) 第2回考える会で出てきた意見(具体的取組み)を振り返り、「自分たちや地域ぐるみで最初に取り組む課題」を各班で1つに絞り込み、実施にあたっての具体的な案を検討する。 ↓ 発表により、参加者全員で共有。 ↓ 参加者全員による「自分が取り組みたいと思う取組み」のシール投票を行い、今後、地域づくり協議会で取り組む具体的取組みを絞り込む。
第4回	12月上旬	○地域づくり協議会で実行する活動リストの作成と、準備委員会の方向性を検討 第3回会議で絞り込まれた具体的取組みを新しい班ごとに話し合い、活動リストを作成し、今後、取り組んでいくべきテーマと活動を参加者全員で共有し、準備委員会の方向性を検討。
地域づくり 協議会設立 準備委員会	12月以降随時	○実際に活動を行う地域づくり協議会を設立するために準備委員会を設立して、具体的事業及び予算等を協議します。
地域づくり 協議会	平成23年3月 設立予定	○住み良い地域とするための活動を開始します。

たのくろ里山保存会

たのくろ里山保存会
千倉町川戸

活動状況について

荒れた山林を整備することで、住民が憩える雑木林に生まれ変わらせ、都市住民と地域住民が交流できる自然環境の形成に努めています。里山活動を中心とした市民交流イベントを企画、運営し、その活動を通して、地区のコミュニティ活動の強化を目指しています。

活動実績

1. 小学生卒業記念植樹
2. 里山活動体験教室の開催
3. 果樹類の栽培及び販売



自然の好きな方、
里山整備に興味のある方を募集しています。



「里山フェスティバル」をはじめとする各種自然体験を通して、多くの方が「おんだら山」を訪れるようになりました。老若男女多様な人々の力で集落活動を進めています。

会員数: 33名 (2010.11. 1現在)
認定森林の所在地:
南房総市千倉町川戸字柏尾574
森林所有者: 南房総市
森林面積: 32,924㎡
活動日: 毎週水曜日 9:00~15:00

代表者: 渡邊俊彦
連絡先: 44-4378

各地区で行われている 地域づくりの活動を紹介します！

谷津地区活性化グループ

代表者 山口常道

活動状況について

平成13年高家神社の大改修が施行され、それに合わせて、食によるまちづくり地域おこしが推進され、それを機会に活性化グループが結成されました。

まず、先進地を観ることにし、神奈川県開成町のアジサイの里、秩父市の古代米栽培とワラと稲穂を使った「鶴と亀」の作り方、いすみ市大原町のホテルの里等の見学を実施しました。手始めに5アールに4種類の古代米を植え付け、それを原料に黒米赤米入りの、のし餅、大福、赤飯(大福は委託加工)と、ワラと稲穂を使っての鶴と亀を作りました。

古代米の田植え、稲刈りの際には、社会学習の一環として朝夷小5年生が参加します。稲刈り後は、皆で古代米入りの餅つきを行います。

平成19年に境内に即売所を建設し、同年福井県小浜市との交流で取り寄せた若狭の箸、境内の梅で作った梅干し、梅酢に漬けた紅生姜等を祭典、包丁式、年末年始、梅見会、産業まつり等で提供し、好評を得ております。特に、黒米入りののし餅、大福、赤飯は、大好評です。

平成22年度に南房総市農林水産物加工機械導入に関する補助事業により、自動餅つき機を導入し、風味の向上を目指しているところです。

5月28日



10月14日



磯花の会 (平磯地区)

活動状況について

平成14年、土地改良に依り平磯に素晴らしい耕地が生まれました。

今迄は荒れた畑で思うような花づくりもできなかったが、「この新しい畑で何か活性化につながる道が開けないか」と仲間と話していたところ、折良く市の観光プロモーション課から花オーナー制による農業の話があり、都会のお客様に花を通じて癒しを与え、喜んで頂ける花畑作りを始めました。県北、東京、神奈川方面から多くの申込があり、観光農業の第一歩を踏み出しました。

平成19年、国・県の施策で、水とみどり、環境保全を目的とした組織が結成され、平磯地区全体を含む「磯花の会」が誕生しました。

会の運動として、花畑としての環境をより美しくする為に遊休農地の解消、協同作業により花、野菜等の展示ほ場、また手作りの直売所を完成させました。海に近いという地域特性を最大限に生かして農業と漁業との連携を図り、花、野菜、海産物などいつでも千倉の「旬」を発信できるようにと希望します。

磯花の会 会長 坂本文蔵



上瀬戸さんあーるの会

代表者 戸倉城男



平成21年より休耕地を利用し、菜花摘み、さつま芋掘りなども手掛けています。

活動状況について

大量生産・大量消費・大量廃棄の社会から循環型の脱温暖化社会をめざし資源の有効利用やCO2の削減に関わる活動を地域ぐるみで取り組んでいます。

平成16年より区民全体で毎月の古紙回収や集合回収型の粗大ゴミ回収活動を行っています。

